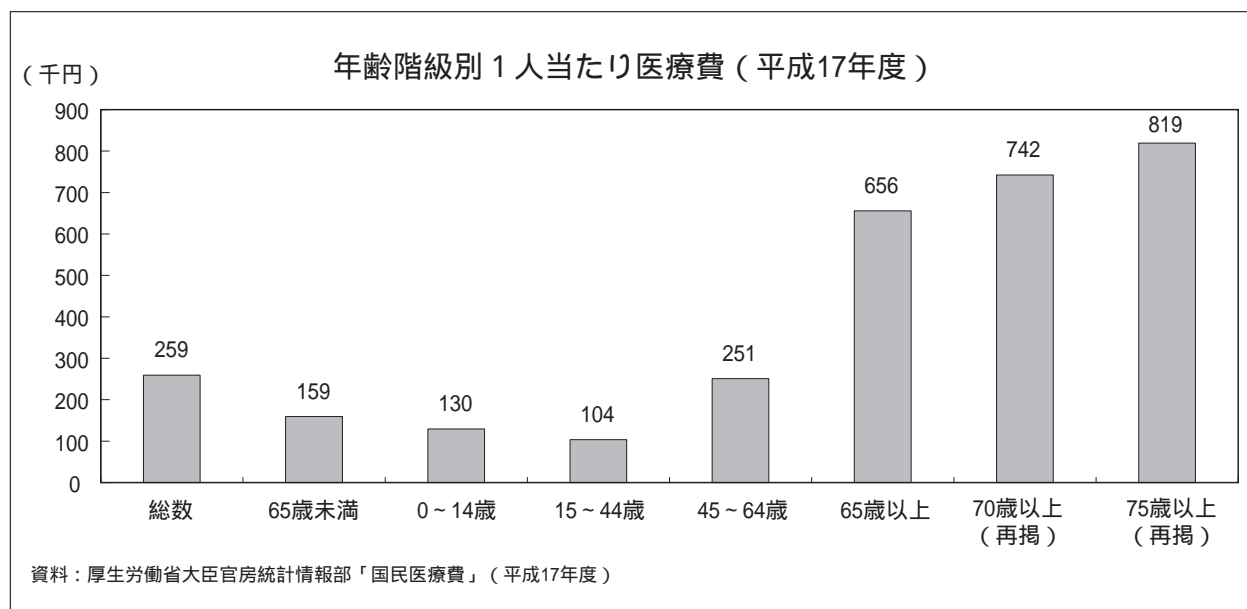


第2項 医療費への影響と構造的・根本的な対策の重要性

1 医療費への影響

年齢階級別の1人当たり医療費について見ると、年齢が高くなるにつれて飛躍的に増加することがわかります。平成17年度の国民医療費における1人当たり医療費では、65歳未満が15.9万円なのに対し、65歳以上は65.6万円であり、75歳以上は81.9万円となっています。75歳以上（後期高齢者）の1人当たり医療費は、65歳未満（一般）の1人当たり医療費の5倍を超えています。

図表 1-3



2 老人医療費の伸びと医療費の増大

急速な高齢化の進展により、今後、75歳以上の後期高齢者が増加していきます。医療技術の高度化と相まって、今後何らの対策も講じなければ、将来の医療費は老人医療費の伸びとともに、大幅に増大していくことが確実です。

3 構造的・根本的な対策の重要性

このように、老人医療費を中心とした将来的な医療費の伸びを避けることはできません。従って、「将来的に医療費の伸びをいかに抑えていくか（医療費適正化対策）」が政策上の課題となります。

対応策としては、患者の窓口負担の引き上げ対策等の「短期的対策」には限界があることから、医療費の伸びの根本要因に対応した構造的な対策である「中長期的対策」が重要となります。